



一般社団法人 新技術応用推進基盤

技術価値評価研修のご紹介



N.T.M.A

(一社)新技術応用推進基盤
NEW TECHNOLOGY MANAGEMENT ASSOCIATION

2023.09.01

- 本資料は作成日時点での情報提供を目的としたものであり、そのすべて / 一部を切り抜いた内容について、今後の正確性を保証するものではありません。
- 本資料の内容、文章、記述、データ、デザイン等のすべて及び紹介する当団体のサービスについて、著作権を含むあらゆる権利が当団体に所属します。
- いかなる形でも、他社・メディア・その他外部機関及び、無関係な社内部門への提供は認めておりません。
- なお、資料中に商用利用可能な有償画像が含まれる場合があり、有償画像の目的外利用は当団体及び画像提供会社より損害賠償請求の対象となります。
また、出所を明記の上、公的機関等の外部機関が調査したデータが含まれる場合があり、この正確性や二次利用による損害等について、当団体は一切の責任を持ちません。
- 上記に違反し、当団体が有形・無形の損害を負った場合、これを賠償することに同意いただいたうえでの閲覧をお願いします。

新技術応用推進基盤の活動のご紹介

技術価値評価研修のご紹介資料

1. 当団体について
2. 技術価値評価研修の目的・概要

新技術応用推進基盤の活動のご紹介

技術価値評価研修のご紹介資料

1. 当団体について

2. 技術価値評価研修の目的・概要

当団体は「時代と共に新たに登場するテクノロジーのビジネス活用推進エンジン」として、日本産業の振興に貢献しております

新技術応用推進基盤について



N.T.M.A.

New Technology Management Association

一般社団法人 新技術応用推進基盤

<https://newtech-ma.com/>

お問い合わせ先 : info@newtech-ma.com

私たちは、新しい技術によるビジネス創出とマーケットインのための技術教育、技術調査・研究の専門家グループです。特に、新しいテクノロジーを使用しないと市場を形成できない場合の「技術とビジネスの連携」に関する課題解決を得意とします。

また海外企業の日本参入や、海外の技術動向に目をくぼりたい日本企業のニーズに応えてきました。

団体名

一般社団法人 新技術応用推進基盤
英称 :
New Technology Management Association

代表理事

谷村 勇平

所在地

東京都 千代田区 九段南1-5-6
りそな九段ビル

設立年

2019年

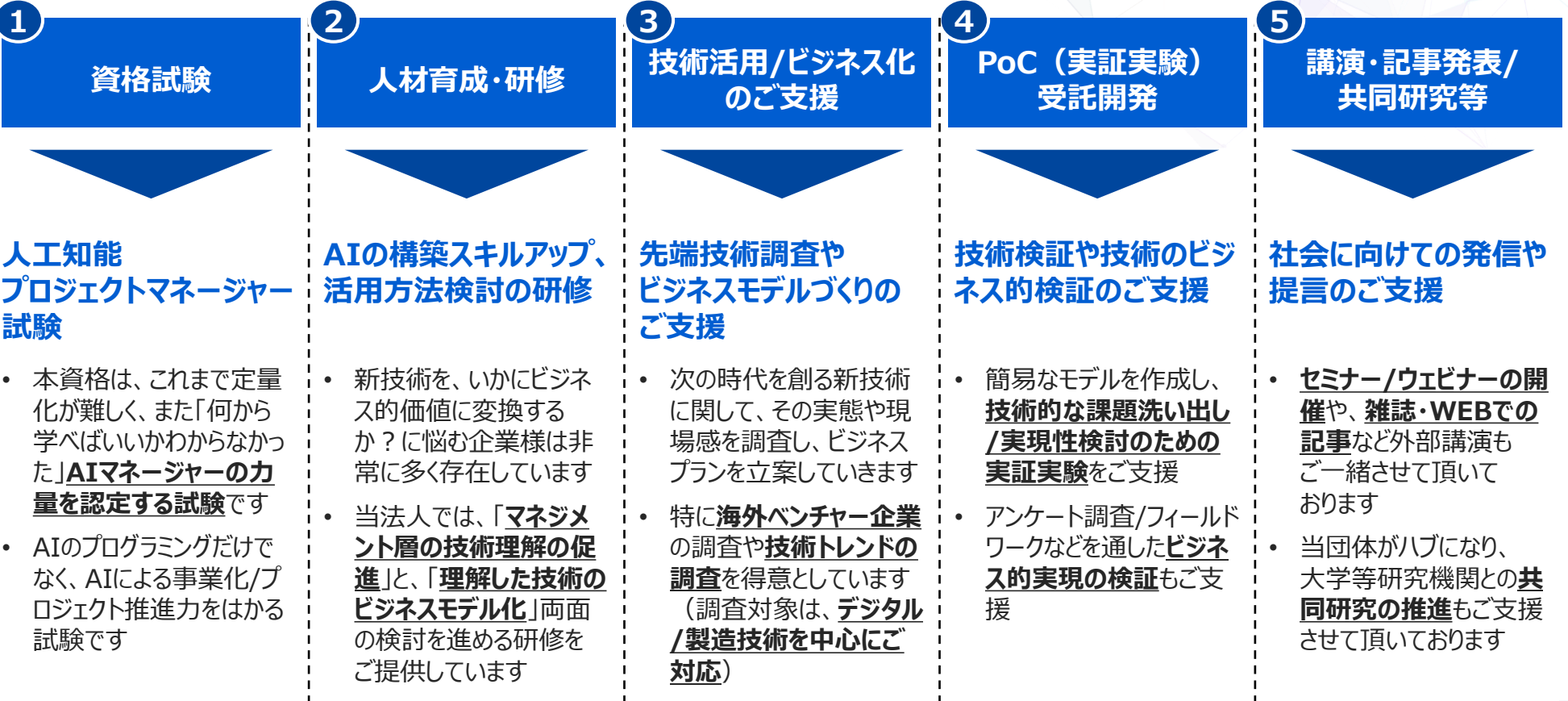
事業概要

- 本協会は「時代と共に新たに登場するテクノロジーのビジネス活用推進エンジン」として、日本のIT産業、製造業の健康的な発展に寄与することを目的としています。
- 特にデジタル領域をはじめとした、技術進歩がはやく、次々と新たな考え方の登場する領域において、ビジネスへのインパクトを測定し、企業が適切な技術理解のもと、投資や人材育成をすることを支援します。
- 将来にわたって技術が企業経営に及ぼすインパクトを共に考え、正しく企業活動に反映されるよう支援します。

当団体は、個人向け～企業向け・社会向けまで、幅広い分野でのご支援・サービスをご提供しています

個人のキャリア
をご支援

企業・社会の成長
をご支援



一般社団法人 新技術応用推進基盤では、 技術戦略のスキルや、特定テーマの技術ビジネス化に関する研修を開催しています。

スキルアップ研修

技術マーケティング研修



- 本研修では、競争力の獲得に技術が大きな要素を持つB2B産業において、「**技術を中心とした製品開発におけるマーケティングとビジネスモデル作成**」を学んでいきます。

技術価値評価研修



- 本研修では、**技術の価値を正しく評価し、これを「文系中心の企画/投資部門の方にもわかりやすく説明する」方法を学び、プレゼンテーションまで実施いただく、ハンズオンの研修コース**です。

本資料でご説明する研修

テーマ別研修

人工知能マネージャー 研修



- 本研修では、**人工知能（AI）活用の為のインハウスチームを立ち上げる企業様向けの研修パック**です。
- 当団体の「人工知能プロジェクトマネージャー資格」と連動しています。

GX/SDGsのビジネス化 研修



- 本研修では、**GX・カーボンニュートラル・SDGs・エシカル消費**など、近年の新しい経済ルールや消費者行動の変化を読み解き、**自社の競争力強化を目指す企業様向けの研修コース**です。

新技術応用推進基盤の調査対象技術の事例/キーワード

■ = 人工知能系技術 ■ = IT/通信系技術 ■ = 電機/機械系技術 ■ = 部材/素材系技術

新デジタル技術対応

人工知能の
最新アルゴリズム

人工知能の
最新プラットフォーム

IoT・エッジAI

マテリアルズ
インフォマティクス

ファクトリー
オートメーション

スマート
コンストラクション

次世代通信設備
(5G・6G・vRAN等)

量子コンピュータ

光半導体・
ロジック半導体等

STEM教育・EdTech

新製造技術対応（メガトレンド/SDGs対応含む）

脱CO₂エネルギー
(PV・風力・水素・
バイオマス等)

CO₂見える化/利活用
(計測・分析・資源化)

持続可能なモノづくり
(サーキュラーエコノミー)

新食料自給
(合成生物学、タンパク質
合成、土壌菌叢等)

水処理/水インフラ
(浄水・下水・
純粋・淡水化)

ポストLiB
(全固体・Li空気・
燃料電池等)

LiBの低価格化
ロードマップ

新機能性化学材料
(ディスプレイ・半導体・
自動車材料等)

ライフサイエンス高度化
(生体チップ/
ライフログ等)

・・・etc

新技術応用推進基盤の活動のご紹介

技術価値評価研修のご紹介資料

1. 当団体について

2. 技術価値評価研修の目的・概要

近年、オープンイノベーション・CVCの活動・技術開発の短命化といった環境変化に伴い、自社 / 他社の技術価値を正しく評価し、経営的に扱う必要性は高まっている

研修
ご提供の背景

- 過去、タコつぼ的な環境で相互理解・評価されていた技術開発も、近年はよりオープンな環境で推進・評価する必要性にかられています
 - オープンイノベーション、産官学連携など組織外の人間との深い協力
 - CVCなどによる外部技術 / 事業の売買収
 - 技術ライフサイクルの短命化からくる、適切なパテント戦略の必要性
- 結果、自社だけでなく他社のものを含め技術をビジネス的な観点で評価し、投資や事業計画を考えねばならず、「技術価値評価」の概念の利活用が求められています

対象企業様
と目的

- そこで本研修は、主に製造業の研究・経営企画部門の方を対象に、技術価値評価に基づく事業計画を実現するために、担当者のスキルアップを目指すものです
 - CVC / VC、製造業を担当する投資銀行、産官学連携のコーディネーター様などにも有意義な内容となっています



技術開発の参加者は多様化を続けており、いまや技術者・研究者でも、「論理的なビジネス・コミュニケーション力」がなくては立ちいかない

いままで

タコつぼ的な組織内で、比較的限られた相手とコミュニケーションしているだけでも、とりあえずの作業はできた

これから

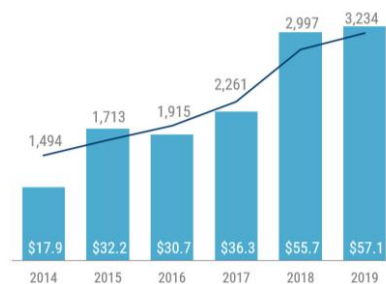
オープンイノベーション



- 従来型の産官学連携や共同研究の増加だけでなく、民間のオープンイノベーションプラットフォームでの取引など、社外との開発連携は多様化を続ける

出所) eiicon company報道資料より

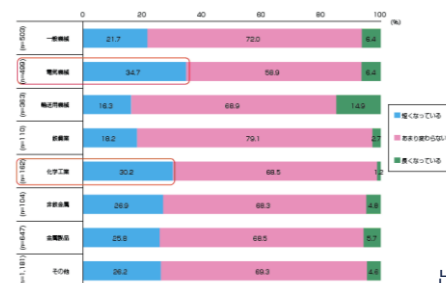
CVC・パテント戦略



- CVCも流行しだして10年、その取引件数も出資額も右肩上がりの状況
- 従来以上に、パテント戦略や技術ポートフォリオ経営が重要なものに

出所) CB Insights 「The 2019 Global CVC Report」より

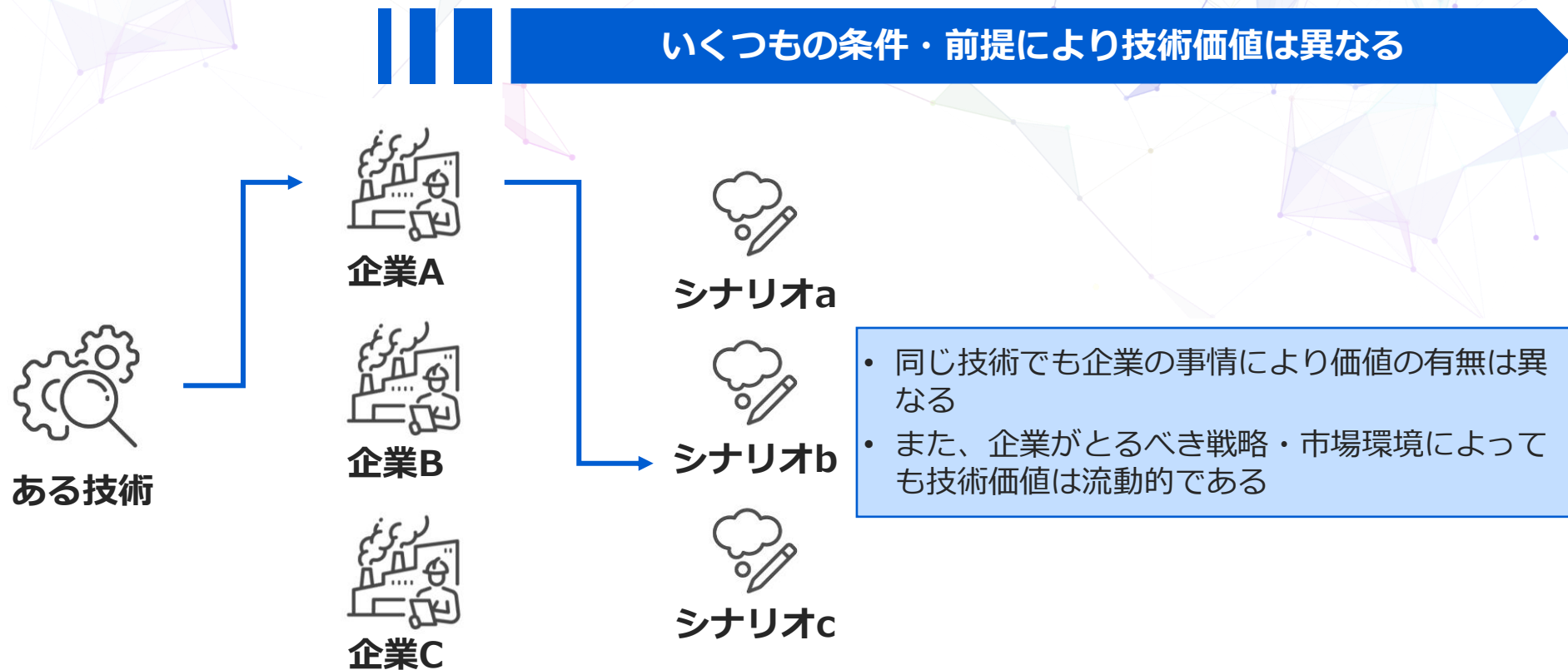
ライフサイクルの短命化



- 製品寿命はどんどん短命化しており、これにともなって技術開発の新陳代謝も活発化
- 従来以上に、投資対効果や資金回収までの目途を考えた開発戦略が必要に

出所) 経済産業省 『ものづくり白書2016』より

技術価値評価とは、いま取り組んでいる技術開発が将来発揮する価値を、複数のシナリオを想定して評価するものである（当団体の定義）



技術価値は誰にとっても一意なものとして定義することはできない
自社にとって、そして自社が信じる将来予測（シナリオ）において得られる価値を評価するものである

技術的に難しいかと、ビジネスへ貢献するかは、本質的にはまったく無関係な問い
企業研究者にとっての「技術価値」は后者であり、これに対応したKPIが必要である



技術的難易度

- 技術的な困難を乗り越えて実現したことは素晴らしいが、本質的に、そのことと収益貢献力は無関係



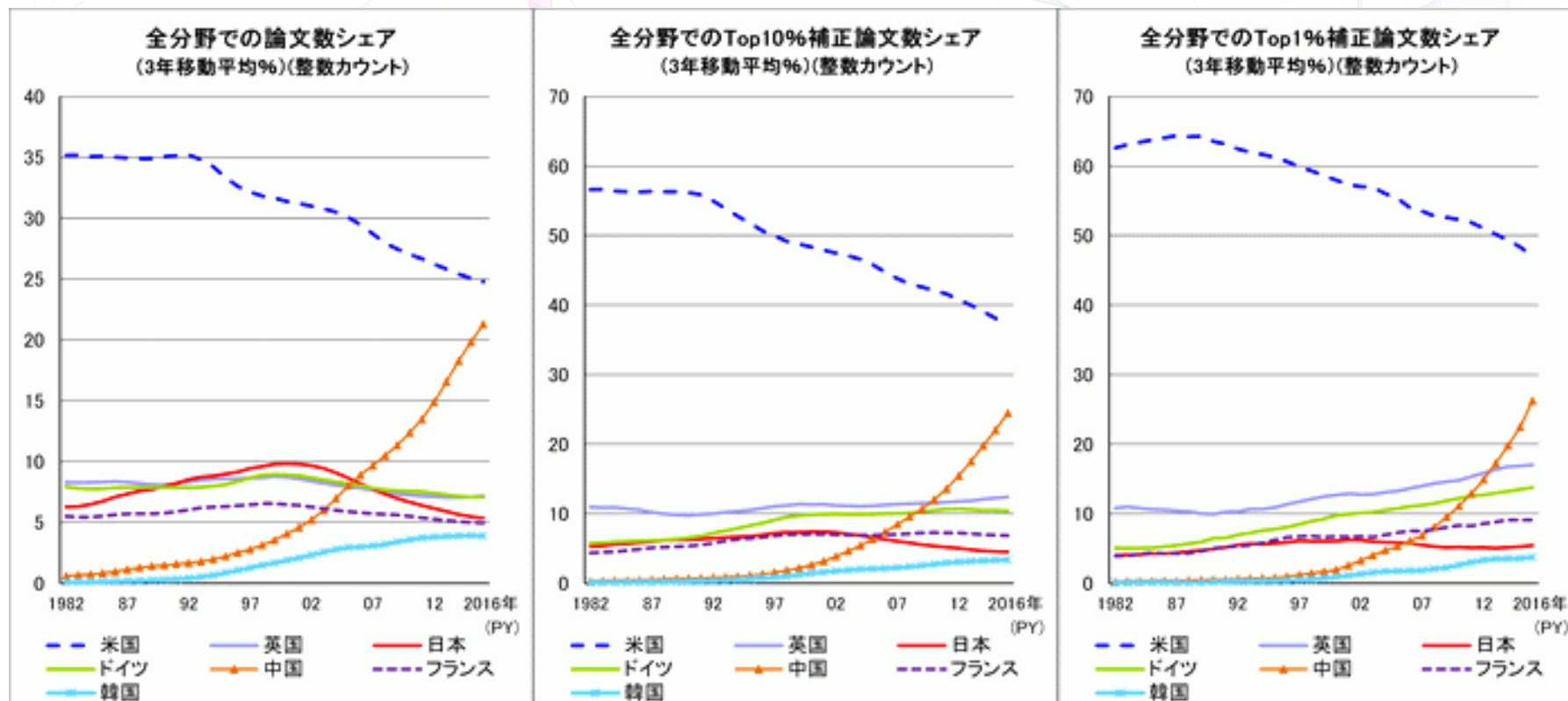
収益貢献力

- 技術的には“金さえあれば誰でもできる”ことでも、収益貢献力の高いことを粛々と実現したならば、そのことは評価されるべき

企業・投資家として技術価値を評価するには、あくまでビジネスへの貢献力を評価する
技術的難易度や発見と、ビジネス的価値を混同しない

論文数・被引用数や特許出願件数等をノルマとする企業もあるが、果たしてこの数値が「自社の技術開発力の高さ」を示しているものか、ピンとこない現場も多い

論文数や論文シェアはよく見るが、結局、これが具体的に何の競争力が高い/低いを示すのか、実態と即しているのか、疑問を感じるケースは少なくない



画像出所) 科学技術・学術政策研究所『科学技術指標2019』より

クラリベイト・アナリティクス社 Web of Science XML (SCIE, 2018年末バージョン)を基に、科学技術・学術政策研究所が集計したもの

そもそも技術価値評価について、専門的な学びの場は少ない あっても、財務よりか技術よりか、極端に二極化してしまう

せつかく学びたいと思ったが…

- 技術を無視してEBITDAなどの財務指標だけで話をしたり、論文被引用数など従来型の評価で技術の中身を見切れていない、逆に技術難易度ばかりアピールしたりなど、結局、経営者・投資家・技術者が、同じテーブルで会話するにはバランスを取り切れていないものばかりだ
- 誰にとっての何のための評価なのか、主語や目的が抜けた“お勉強”になりがち
- そもそも、このような問題意識は専門性が高すぎて研修や学びの機会がない



そこで一般社団法人 新技術応用推進では、製造業・B2B産業の技術価値評価の基礎を学ぶため、座学及びワークショップの研修プランをご用意

- 製造業など、技術開発が事業や経営にとって重要な産業における技術価値評価を学びたい
- 知識だけでなく、実践的な練習を通してスキルを養いたい

目的 ①

技術価値評価の概念と基本的な知識、必要性・目的を理解する

目的 ②

経営戦略/事業戦略/技術戦略と技術価値評価を紐づけて用いる

目的 ③

ケーススタディ等を通して、実作業の練習をしたい



お問い合わせ先

一般社団法人 新技術応用推進基盤
〒102-0074
東京都千代田区九段南1-5-6 りそな九段ビル
info@newtech-ma.com

THANK YOU

— End of File —



N.T.M.A

(一社)新技術応用推進基盤

NEW TECHNOLOGY MANAGEMENT ASSOCIATION

資料作成：一般社団法人 新技術応用推進基盤

本資料は特定の企業の従業員様のみを対象としており、第三者への配布、引用、複製はたとえ抜粋の形であっても承諾しておりません。

また、本資料はお客様への情報提供を目的とした資料であり、その一部を切り抜いた内容について、

正確性を担保するものではありません。

資料中のアイコン・画像などに、商用利用可能なフリー素材を使用している場合があります。資料の複製は個別に許諾の契約を結ばない限り、いかなる形でも承諾しておりません。